



新板
入

経合本
丸

へ遠13
675
止



1675
5



繪合六本抄卷之八

らんらんの氏をわらまやいへ松竹かきし羅西上候哉
あまをよふ帳表の果もも二筋まをそしるたてまを
の極ひを重たせりぬ人舞りて寺町ゆをめてあめあ
ごうからせんがれ抄とすすのいれもあひのたもま
も我人あはとすつら町つたれごらるるびそ店とら
まはる有平そと足袋を裁縫入織も人小作は遠海
栲門あだりたあ形より主候平が物とたるふはは
糸市井の面をて雲あさあは友の徳家のこりた徳の
えのめく糸にからる世とのきとらねとらぬ糸合あ





之東の橋六虎溪の山麓のたうと此合子皆因縁を
ぞとひまらふを此別建ころのうへはひらく袖を
ゆふにぞちて物鬼さうぞぬゆるくかひく奇持
とめんども

絵合六車抄書之又終

日本橋通南之丁目

江戸 前川六車門

安永七年戊子月

仙歌橋水浩

大坂 和泉屋卯三郎

二条毎三景活而合所

京 野田屋八板

